

さといも

1 現状及び課題

	H22	H30	H30/H22
生産量	2.5万t	1.4万t	60%
全国順位	第1位	第3位	↘
産出額	39億円	23億円	59%
加工・業務用シェア	81%	78%	96%

※出典：野菜生産出荷統計、生産農業所得統計（農水省）

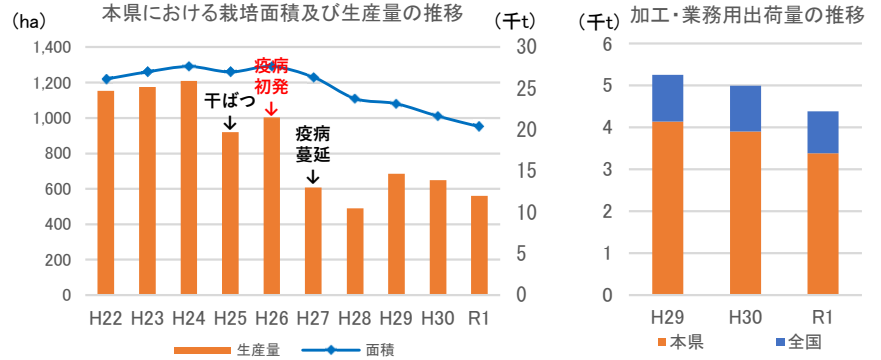
- 栽培戸数：1,469戸
平均面積：42a/戸
※出典：平成30年度市町村集計

➤ 平均反収

	平均反収	目標反収
トンネル	2.0t	2.0t
マルチ（早熟）	1.7t	2.4t
中・晩生（普通）	1.4t	3.3t
京芋	1.1t	1.8t

※出典：平成30年度市町村集計（平均反収）
経営管理指針（目標：令和2年作成）

- 加工業務用の歩留まり率：40～50%
※県内主要業者聞き取り
- 県内産早生種芋充足率：58%
※令和2年度アグリシード取扱い分



出典：野菜生産出荷統計、生産農業所得統計（農水省）

【解決すべき事項】

1. 生産面積・生産量の減少
2. 反収及び品質の低下
3. 県産優良種芋の不足
4. 農繁期の労働力の不足
5. 加工・業務用等の実需者ニーズへの対応
6. 2050年、化学肥料の使用量30%低減、
化学農薬の使用量50%低減



2 産地の目指す姿（目標：令和7年度）

収量2t/10a (H30平均1.5t/10a) を目指します！

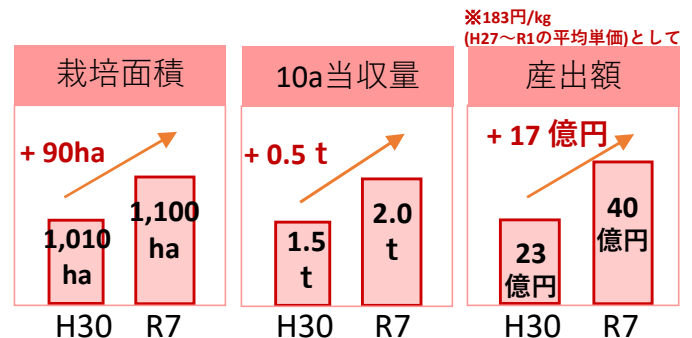
- ・肥培管理の最適化や疫病等病害対策が確立され、収量・品質が向上しています
- ・輪作体系の柱として確立しています

効率的な経営・産地をつくります！

- ・契約取引に基づく産地化が進んでいます
- ・人や圃場の稼働状況を可視化しています
- ・農地の集約化・団地化が進んでいます
- ・作業の機械化・分業化が進んでいます

持続可能な産地を目指します！

- ・多様な担い手が参画し、産地規模が拡大しています
- ・県産優良種芋を安定して確保しています
- ・産地加工の取組が進んでいます
- ・経営安定対策を活用しています
- ・環境に配慮した技術に取り組んでいます



《さといも60aシミュレート》

- 収量2.0t/10a
- 早熟栽培（早生種）
- 植付け2～3月、収穫8月
- 粗収益：89万円

輪作品目の柱に！

3 生産者が取り組むこと

1. 経営基盤を強化します

- 担い手を中心とした計画的な規模拡大と経営課題の明確化
- 農地集積や経営体間農地シャッフルの実践
- 労働力確保に向けた労働・環境条件の改善
- 価格安定制度・収入保険制度の活用

2. 反収増加・品質向上を図ります

- 圃場毎の肥培管理と収量の見える化
- 適期かん水による水晶いも等の対策
- 疫病対策マニュアルや防除暦に基づく適期防除
- 品質確保のための適期収穫、速やかな集・出荷
- 輪作実施による連作障害回避
- 圃場の均平化による排水不良の解消や土壌の物理性改善
- トンネル・不織布栽培による作付前進化



種芋消毒

3. 優良種芋の確保に取り組めます

- 種芋ほ場の設置
- 種芋更新マニュアルに基づく優良種芋選別と定期的な種芋更新

4. 作業効率化を図ります

- 作業工程の見える化と作業カイゼンの実践
- 圃場合筆による作業性の向上
- スマート農機導入によるオペレーターの負担軽減
- 収穫機、選別機、自動かん水装置等の省力機器導入
- 作業の受委託による分業化

5. 実需者ニーズに対応します

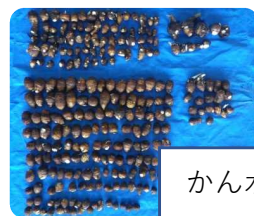
- 需要に応じた作型や品種選定
- 契約等に基づいた計画的な生産出荷

6. 環境に配慮した技術に取り組めます

- 土壌診断の実施による適正施肥や緑肥の活用
- 環境負荷軽減資材等の導入



無かん水



かん水

適期かん水による収量向上

畑かん利用や機械化体系の実践による産地力の強化

4 関係者が支援すること

1. 経営基盤の強化を支援します

- 産地の核となる大規模経営体の育成
- 供給農地のマッチングや農地シャッフル会の開催、合筆への支援
- 農業次世代人材投資資金等の活用支援
- 転換品目や夏場の複合経営品目として推進
- 外国人労働力の確保体制の強化

2. 反収増加・品質向上を支援します

- 畑地かんがい等を活用した高収益モデルの提案
- トンネル・不織布栽培の技術導入支援
- 疫病対策マニュアルに基づく防除対策支援
- 水晶いも等の選別方法や貯蔵出荷等の検討

3. 優良種芋の確保に努めます

- 優良品種・系統の選抜と供給体制の確立
- 遺伝資源の収集と保存
- 種芋更新マニュアルの作成
- 規格外種芋の分割利用の検討

4. 作業の効率化と省力化を推進します

- 省力機械や自動かん水装置等の導入・活用支援
- スマート農業技術の普及・定着の推進と技術指導者の育成
- 耕種版インテグレーションモデルの確立による分業体制の構築支援
- 粗いも出荷に係る受入体制の検討



自動かん水装置

5. 実需者との連携を強化します

- 有利販売に向けた取組の支援
- 加工事業者の規模拡大や参入等の支援
- 多様なニーズに対応した商品開発の支援
- 耕種版インテグレーションの推進による実需者との連携支援

6. 環境に配慮した技術への取組を推進します

- 緑肥等の活用も含めた輪作体系モデルの確立
- 化学肥料削減のための実証

耕種版インテグレーションや産地加工の推進による基盤強化

※耕種版インテグレーションとは、生産者と実需者が生産から加工、販売まで一体的なルールのもと、総合的な契約を結ぶ取組。